

Q

耕作放棄地の再生について

松尾 孝彦 議員



A

平成24年度の耕作放棄地は減少

質問一 これまでの取り組み状況と今後の課題について。

二 支援体制について。

三 「攻めの農林水産業」についての市の見解は。

答弁一 (市長) 農業振興施策として耕作放棄地面積解消の目標値を設定した。管理されていない農地については、所有者に指導しており、20年度の37畝から24年度は

20畝に耕作放棄地は減少している。

課題として市内の農地が小規模で分散傾向であり、資産として保有する傾向にある。

二 支援の取り組みとして、市民農園開設、新規就農者への農地提供、農地銀行による情報提供を実施している。

また、現在企業から農業経営の話があり、農地の幹旋・調整をし

ている。



里芋畑

ている。

三 国の進める集積土地利用型農業で競争力をつけることは、小規模分散農地の鶴ヶ島では難しい。安心して安全なおいしい鶴ヶ島農産物そのもののブランド化、それらを活用した加工・特産化や、農業の観光化などで付加価値を高めていく。

◎その他の質問 商店街と地域の活性化に関する取り組みについて

三 国の進める集積土地利用型農業で競争力をつけることは、小規模分散農地の鶴ヶ島では難しい。安心して安全なおいしい鶴ヶ島農産物そのもののブランド化、それらを活用した加工・特産化や、農業の観光化などで付加価値を高め

Q

一本松駅の橋上化について

杉田 恭之 議員



A

市も積極的に努力をする

質問一 (通称) 交通バリアフリー

一法における鉄道事業者の責務は。

二 先行になった東武鉄道越生線

武州長瀬駅の橋上化の経緯は。

三 一本松駅南側ロータリーと南側改札口の開設の関係は。

四 鉄道事業者である東武鉄道(株)の一本松駅の橋上化に対しての見解は。

五 一本松駅橋上化に関わる費用の負担割合は。

答弁一 (市長) 移動等円滑化のために必要な措置として、一日当たりの利用者数が3000人以上の鉄道駅等について、段差の解消

視覚障害者の転落防止設備や誘導

用ブロック、障害者対応型便所の設置等が定められている。

二 長瀬駅北口周辺地区整備事業により、駅舎等整備工事の基本協定を東武鉄道と毛呂山町が締結し、工事に着手したとのことである。

三 用地を早期に確保し、使用開始に努める。南側改札口の開設は、利用者の安全確保の施設管理上の課題から現時点では困難である。

四 一本松駅の南側と北側の駅前整備の進捗状況により、市として東武鉄道(株)と協議を行う。

五 東武鉄道(株)としては、経費は、請願者負担を前提としているとのことである。



現在の一本松駅南側